

幼稚園、保育所に於ける年中行事について

勝 木 と み

Tomi Katuki

1. テーマ設定の理由

幼稚園、保育所の日常保育の中で、保育者から「行事に追われ忙しくて」とよくきくのである。ひところ、保育の現場で行事中心保育がなされ、指導計画の主題は行事でうまっていた。例えば、5月は「子供の日」6月は「時計屋さんを見に行きましょう」7月は「七夕まつり」9月は「お月見」10月は「運動会」11月は「七五三」12月は「クリスマス」そして、1月から落ち着きそうに見えた時期に3月の「お別れ会」の練習などであった。

「子供の興味を大切に」と理論では理解しておりながらも、年度当初にたてた年中行事に追いまわされ、一つ終わった翌日から次の行事の仕渡にかかるという、子供無視がなされていたといってもいいすぎではなかった。

近頃はだいぶ、行事の取りあげ方にも、子供中心、興味中心が考えられるようになってはきたが、まだ多く残っているようである。

そこで、現在の幼稚園、保育所の実態を知り、のぞましいあり方を考えてみたいと思ったのである。

2. 先ず、行事の意味を辞典からみた

① 国語辞典

イ、事をとりおこなうこと（又は、その人）

ロ、時を定めておこなう事柄

ハ、昔、朝廷の儀式、公事などに主としてその事を扱った職名。

ニ、昔、社内の雑事をおこなった神仏。

ホ、昔、商人又は町内の組合で、順番に組合を代表して表むきの事柄を取り扱った人、幹事、頭取。

② 新国語辞典

決った計画によりおこなう事柄や催し。

③ 国語大辞典

恒例として取りおこなう事。またその事柄、催し事「年中行事」

などで、上記の中から幼児教育施設で考えられるのは「時を定めておこなう事」と、解釈されるのである。

これら一般におこなわれている年中行事には、古い伝統の中から今日まで伝えられている

ものと、現代の社会生活、園生活に必要で、子供の成長に必要と思われるものである。故に、多くの中から保育効果のあるものを取り入れているのである。

過去に於ては各家庭でなされていた日本の伝統行事も、現代の核家族化、共働き家庭、その他で忘れ去られているものが多い。ともすると、年度当所に立案する年中行事を「昨年おこなったから今年も」「例年やっているから今年も」と安易にくみ入れている園もあるが、それでは、何のための行事か、ねらいは何かと問いたくなるし、進歩もない。内容、日時、方法について取捨選択が必要と思われる。

そこで、長野県に於て、何を、どの時期にとりあげているかを知り、考えてみたいと思った。

3、調査対象

長野県内、北、中、南信の10園を対象とした。

幼稚園、3園。 公立保育所、5園。 私立保育所 2園。 計10園。

1地区(市、町、村)1園から実態をきけば、大体その市、町、村で類似の予定をたてていると思うので、このようにした。

4、調査日、 昭和60年7月、8月

5、調査方法、 質問紙法

6、内容

① 昭和60年度に於て、毎月、定期的におこなう行事とその日程。

② 昭和60年度に於て、特定の月におこなう行事とその日程。

それぞれの内容、方法をくわしく知りたかったが、多忙な保育の中でそれをきく事はむりに思われたのでやめにし、部分的に直接きく事にした。

7、調査結果と考察

① 毎月、定期的におこなう行事

行 事	幼 稚 園	保 育 所		時 期			
		公 立	私 立	上旬	中旬	下旬	不定
身 体 測 定	2	5	2		3	4	2
誕 生 会	2	5	2		4	4	1
避 難 訓 練	2		3		2	3	
保 育 参 観	1					1	
交 通 指 導		1		1			

歯みがき指導		(毎日) 1					
体操教室	($\frac{1}{2}$ 回)	1					
ワンパクデー		(毎週 水曜)	1				

イ、身体測定について

多くが中旬から下旬に予定されていた。1園が奇数月に予定していた。

何故、毎月おこなうのか。その理由は、保育用品店から購入する家庭と園との連絡帖に身体測定欄があり、毎月記入するようになっているのでとの事であった。又、幼児期の成長はいちぢるしいので、毎月「家庭に報告し健康を管理してもらおうのかがねらいである。」ときいた。

9園が4月から実施しているようであるが、新入園児は、4月はまだ環境に対し、さぐりの状態で、園生活に慣れず不安の時期である。つまり、集団内の生活としては“ごたごたの時期”であり、この頃に衣服を脱がせると病院とまちがえて泣き出す子供や、翌日から登園拒否をおこす子供が居る。故に、5月から始めるという園もあった。

奇数月に実施するという園の考えは、3才以上児は、毎月の変化はさほどないので隔月にしているとの事であった。3才未満児について調査をしなかったが、これは毎月測定をする必要があると思う。

身体測定と健康診断の区別は全園が考えており、健康診断については10園が5月か6月に実施し、年1回であった。

幼稚園は勿論であるが保育所も学校保健法に準じておこなうように義務づけられている。学校保健法では、実施時期は「毎学年、定期的におこなう」とあり、検査項目を大きく分けると、① 身長、体重、胸囲、座高、② 内臓関係(栄養状態、脊柱の異状など)③ 視力、聴力、④ 眼、耳鼻咽喉、⑤ 歯科関係、⑥ レントゲンによる結核の有無、⑦ 寄生虫の有無(5月か6月におこなう)などとなっている。

身長は毎学期毎、体重は毎月毎、胸囲は隔月測定としている園もあるが、座高は殆ど測定されていない。座高は机、椅子の高さを調べる際に必要なぐらいで、子供の身体発達にはさほど必要はないからである。

保育所が園で測定できるものに視力検査があるが、時間がかかるのでむりである。調査では私立保育所1園が実施していた。数年前、私が諏訪市の5才児約400名に検査をお願いしたことがある。検査表は幼児用を用いた。その結果、弱視が1名いたのに気が付いた。幼児用検査表は、「さかな」「とり」などと言葉で答えねばならないので、指さしでできるランドルト氏環を用いようかとも考えたが、学者が幼児用としているのでそれをつかったが、子供は、

指さしで答えるほうがよかったのではないかと思われた。

視力聴力については、日常生活の中で、親や保育者が、絵をかいている子供の様子をみたり、名前を呼んだ時、話しをしている時などの反応の様子に注意していればわかるのである。

寄生虫は、蟯虫検査をしているところがあり、1園1名ぐらいの保有者とのことであった。

専門医による他の検査について学校保健法では「1年に1回おこなう」とあり、保育所もそれにならっているようであるが、記入してあった5園は5月か6月に実施していた。どの園も年1回は実施しているが、幼い子供であり、忙しい母親が多い昨今、子供の健康に目がとどきにくい事情を考えると年、2、3回は実施したいものである。しかし、問題は専門医への謝礼金であり、福祉の面から、本省で考えてもらいたいと思う。

ロ、誕生会

10園中9園が毎月おこない、日程は中旬から下旬であり、1園は隔月であった。

戦後、誕生会がさかんにおこなわれるようになったが、各家庭でその子供の誕生日にお祝いをし、園で又、その月の子供をまとめてお祝いする事になると幼い子供は誕生日が2度あると考えないであろうか。保育者の考えにより、園児数の多少もあり、会のもち方はいろいろあるのはよいが、殆どがその月生れの子供を一括している。お祝いの品は保育者考案の「誕生カード」に手形、足形を捺し、お祝いの言葉をそえて持ち帰らせているようである。

会のもち方は、全員保育の形態で保育者による人形芝居、紙芝居、劇、幻燈などがなされリズム室で会食がなされていた。時々見学させて頂き感じることは、どの園も大体おなじような事がくり返しなされており、毎月の事であるから子供の興味も予想していたほどでなかった。

その子供の誕生日は「〇月△日」である。故に、その日にクラスの子供たちで祝ってやってはどうかと思う。誕生日にはお祝いの品をもらう日、食べる日、でなく大きく育った喜びとともに、お互いの生命の尊厳と、感謝の気持ちをもたせる事をねらいとしたいものである。近頃『子供の自殺』を耳にしたり、一寸考えられないような残酷なことを友だちにすいじめ行動をきくが、生命の大切さをどうしてわからせばよいのかと考えてしまう。その点からも誕生日を意義あるものにしていきたいと思う昨今である。両親、家族、保育者、友だちに見守られ、そしてお互いに支えあって生きている喜びを感じてさせるチャンスだと思う。1人で大きくなったのではない。1人で生きているのではない事をしっかり教えるべきである。過去に於て私は、子供の誕生日に、クラス全員の前で子供を背おい部屋を歩きまわり、それをお祝いにしたのである。5才児になるとはずかしがったが、それでも背中にまわって来た。重くなった子供と私の体のぬくもりが伝わりあった時は、思わず目がしらが熱くなった。他の子供たちは、はやしながらも「私は〇月△日よ」「僕は……」「僕の番が早く来ないかなー」などと自分の番の来るのを待っていた。

保育の中で、何をねらいとし、子供に何を与えてやるか、それは保育者の人生観、保育観

から出るのである。

ハ、避難訓練

5園が毎月実施していた。避難訓練には火災と地震がある。又その方法には全体訓練と部分訓練がある。調査園では、全部火災訓練で、方法は全体訓練であった。日時を決めて、園全体で一斉に、一応決めてある避難場所に子供を誘導するのである。大体、三分程度で避難できるようである。

実施園は4月から始めているようである。4月といえば、新入園児はまだ園生活に慣れていない。その不安定な時に、気嫌よく遊んでいたら突然、何かの知らせで急いで戸外につれ出されたら恐れをいだくのではないだろうか。年少児などは翌日から登園拒否をおこさないだろうか。園一斉におこなう中でも、クラス保育の時と自由に遊んでいる時がある。クラス保育の時は部屋に集まっているので誘導は楽であるが、自由に遊んでいる時は保育者の対処はむづかしい。

部分訓練は、クラスで適當の時に計画に入ればよいので、保育者の指導に従い「早く庭に出る」「早くならぶ」など年令に応じて出来る。

地震は状況によって保育者の早急な判断と対処が必要である。が、ニュースなどで子供たちが関心をもったその時におこなうと効果がある。例えばメキシコの地震のニュースがテレビで放映されたら翌日、子供と話しあい、もし今、地震になったらどうするかを考えさせると幼くても真剣になるのである。「早く机の下に入る。頭から入る」などと云ってくれるのである。

毎月定期的におこなうのもよいが、慣れすぎて緊張感を失う事もあるから注意すべきである。或時、園庭に避難し、人数をかぞえたら2名足りないので急いで園内を探したら部屋で机の下にかくれていた。注意をすると「あんなのつまらないもの」といわれ「はっ」と反省させられたことがある。たしかに子供からみれば、楽しく遊んでいる時に急に合図により遊びを中断され、庭にとび出してそれで終りでは、つまらないのは当然であろう。この点を保育者はよく考えてみるべきである。

9月1日の「防災の日」12月の「火災予防週間」などに地域の行事に参加させて頂く事は子供の興味がもりあがるし意味もある。チャンスをねらうのである。

ニ、保育参観日

毎月実施していると記入した園は幼稚園1園であった。子供の園での姿を見て頂き、園の保育方針を理解して頂くのが基本的なねらいで、その度にその日のねらいを家庭に知らせていると思われる。参観のあと、クラス懇談をしたり、子供と給食をともにしたり、外来講師による講習会などがなされているようである。外来講師もよいが、毎日生活をともにしている園長又は主任が現在問題になっている子供の体について当園ではどんな注意をしているか、又は絵本について、給食について、あそびについてなど、その折折にテーマを考えて話

すことが意義があると思うのである。実際例をとりあげたり、考えを伝える事のほうが血の通いがあり、親に訴えるものは大きいと思う。

しかし、全体をとおしてみると、参親日として予定にくみ入れなくても、父親参観、祖母参観、運動会など親を招く日が1か月に1度はある。保育所は働く母親が多いので日旺参観をおこなっている園が多い。参観日は子供の姿を見るだけでなく親同士のコミュニケーションの場として意義がある。核家族が多く子供の数も少ないこのごろ、親同士が地域で交流する折も少ない現状では、参観日は、よい学習の場である。

ホ、交通指導

毎月、実施している園が1園あった。のりものの通らない場所で指導しても効果はうすいので、園外につれ出し、その場で指導しなければならないから保育者は神経をつかう。地域の安全週間にあわせておこなうとよいと思う。

ヘ、歯みがき指導

記入されていたままを取りあげたが、殆どの園が食後、生活指導としておこなっていると思われる。

ト、体操教室

外来講師により、月2回、5才児におこなっている幼稚園があった。

幼児教育の場は殆ど女性保育者であり、家庭でも広い遊び場はなく、近頃の子供はとにかくソフトに育ってきているので男の先生に来て頂き一緒に遊んで頂くという事であった。

体操教室というと、技術面を重視するように思われるが、遊びの中で、やる気、自信をもたせたいのがねらいであり、この教室を始めてから内巧性の子供が明るくなり、友だちともよく遊ぶようになったという事である。

チ、ワンパクデー

面白い発想だと思った。

この園のデーリィプログラムは10時まで自由保育で、10時に全員が集まり、全員保育かクラス保育が始まっている。子供がもっと遊びたい、今ここで盛り上り、興味が最高調に達していても10時の合図で打ち切らなければならない。そこで毎週、水旺日には11時10分まで自由に、思う存分遊ばせようという考えであるときいた。子供がその日をどう考えているか、子供の声をきいてもらおうと、登園すると「今日は、うんと遊べるね」という声を沢山きいたという。

この言葉から考えさせられる事は、毎日、うんと遊んでいないという事になる。

ディリープログラムとは何か。どういう保育観でたてたのか疑問に思う事がある。その中には、保育目標が、児童観が、人生観が含まれている筈である。何故、デーリィプログラムが必要なのか。一度園で決めたものは変えられないものか。誰のためのものかなど問いたくなる。年度始めに保育者が集まって、園目標とともにデーリィプログラムの内容について話

しあう事が必要だと思う。年度の途中で変更してもよいではないか。全部の年齢が一斉に遊びを打ち切らなくてもよいのではないだろうか。

このワンパクデーを考えた園は保育室が二階にあり150名ほどの多人数であるためにやむを得ずこの日を考えたときいた。設備、幼児数などにより理想をもって保育に当ろうとしても現実にはむりな事のあるのを知らされた。

自由保育こそ、保育のメインストーリーであると考えているが、どうにもならない事がある。

② 特定の月におこなう行事

月	行 事	幼稚園 公立私立	保育所 公立私立	月	行 事	幼稚園 公立私立	保育所 公立私立	月	行 事	幼稚園 公立私立	保育所 公立私立	月	行 事	幼稚園 公立私立	保育所 公立私立
4	始 業 式	2	2	6	プール開き	3	1 2	7	サマー パーティー	1		10	交 通 安 全		1
	入 園 式	3	3		運動会	1			花 火 大 会	1			参 観 日	2	1
	参 観 日	1	1		遠 足		1	8	七夕子供会	1	1		りんご狩	1	
	家庭訪問	2	4		参 観 日	1	1 1		プール大会		1		バザー		1
	学級懇談		1 2		時計見学	1	1		参 観 日	1	1		体力測定	1	1
	小 遠 足		1		交 通 安 全		1		カレー大会		1		地区音楽会		1
	交 通 安 全		2		健康診断		1 1		黒ん坊大会		1		ガーデン パーティー	1	
5	子 供 会		1		母子科指導		1	9	祖父母参観日	1	2 1	11	焼いも大会	1	2 2
	親子遠足	3	3 2		避難訓練		1		運動会	2	3 3		参 観 日		1 2
	父親参観	3	1	7	親子遠足	1	1		避難訓練	1	1		交 通 安 全	1	
	家庭訪問		1		七夕	1	1 2		遠 足		1		懇 談 会		1
	学級懇談	1	1		夏まつり		1		視力検査		1		消防署見学	1	1 3
	交 通 安 全	3	2		参 観 日	2	2 1	10	運動会		1	12	クリスマス	1	2 2
	体育祭参加		1		合宿保育		2		遠 足	3	2 1		生活発表		4
	健康診断	3			個別懇談		1		祖父母参観日	1	1 1		もちつき	1	1 2
	体力測定	1			小 遠 足		1		いもほり	1	1		参 観 日		2
													卒 園 式	3	4 2

②の表は10園のまとめであるが、多くの行事が年度当初に予定されていた。幼稚園と保育所の差はあまりなかったが、保育所のほうが少し多かった。

○印の行事は、主題活動として数週間つづくものである。

上記の園行事には、地域でおこなわれる行事を子供の生活に取り入れるものと、生活の区切りとして園が考えるものと、家庭との連携を密にするためのものと、園が考えてのぞましいと思われる子供の発達や興味から考えたものなど区分される。又、その日のみのものと、主題活動として数週間続くものがある。過去に於ては1か月1主題で、それも行事保育中心であったが、近頃はそれがなくなってきた事は喜ばしいと思う。が、まだ「行事に追われ忙しくて」との保育者の声をきく。

8、まとめ

行事はもともとは、人人の生活や勤労、生活と結びついたものであり、それにより地域の人人と親睦を深め祝いあったものである。

保育は大体、毎日同じような生活であるから、そこに地域でいとなまれる子供に関心のあるものをあそびの中に取り入れても不思議ではない。何が興味があり、のぞましいかは保育者にはわかる筈である。

保育指針では行事について「行事の指導にあたっては楽しい雰囲気の中で子供に快い感動を与え、生活経験を豊かなものとするよう配慮する事。このため指導する行事の選択を適切にし、その実態に於ては子供に過重な負担をかけたり、行事のためにかたよった保育にならない事、また、必要に応じ家庭や地域の理解と協力を得るように配慮する事」と記している。保育所保育要領に於ては「子供たちにとって今までの行事の多くが、主体性をうばわれた内容でした。原因はいろいろありますが、一つには数多くの行事を、次から次へとこなす、いわゆる行事に追われた保育であった点があげられます。行事そのものが保育目標となり、一つの行事が終ると次の行事のために保育が始まるという状態で、行事と行事との保育の系統性や、子供の発達の保障などは考えられず実施していた点や、毎年「行事とは何か」という事が確認されないばかりか、その園の子供の発達段階、集団の発展の状況、季節などが考慮されず、形式的にマンネリ化した行事がくり返えされていた点が目立っていました。

こうした園の行事が非常に多かった原因としては、戦後、貧困な家庭環境の中であって、子供たちに期待をもたせるような行事が家庭ではおこなえないという状況の中から保育所が肩がわりしておこなっていた行事も目立ち、社会状況の変化に応じて、地域と共に伝承していくべき行事、子供を中心におこなう行事、家族でおこなう行事、家庭と園とが共通しておこなう行事など、行事をみなおし、整理して見る必要があります。

園の行事は子供が中心になる事が大切です。子供自身が自己目標をもてる活動内容であり、主体的にとりくんでいくもの、さらに、集団としての発展がうかがえる事が必要です。

行事をとりあげるためには、保育者は、常に「行事をととして子供に何を育てるか」を明らかにして、年間の中に位置づけること、そのためには、行事の考え方、取りあげ方、子供の見方など話しあっている職員集団です」

と、具体的に、過去の園での行事のいきすぎについて注意をしているのである。子供の見る側に立つ行事と、見せる側に立つ行事があるが、園での行事はその内容いかんにかかわらず子供は参加の姿でかわり、保育のねらいがそこに含まれている事を考えるべきである。

その行事によって子供の中に何が育ったか、個々に、又集団が、又保育者の目がどう変わったかが大切なポイントである。